誠実に・着実に・皆様とともに

西山かずみ

市議会活動報告

会報：第21号

教育福祉常任委員会　委員
議会運営委員会　委員
議会改革推進検討委員会　委員長
災害等対策推進特別委員会　委員

いわき市 IWAKI CITY 討議資料

ごあいさつ

新年度が始まり何かと気忙しい日々が続きますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。現在、新型コロナウィルスの感染者数が増加に転じてきていることから、第７波による影響が大変心配されるところです。感染者年齢にも変化が見てとれるようですので、基本的な感染予防策について、いま一度、ご家庭で確認をお願いいたします。本市は、国や県の対策等を踏まえた、感染拡大防止対策（確かなブレーキ）と市内経済の活性化（ゆるやかなアクセル）との両立で、一日でも早く平穏が訪れるよう担当部を中心に日々対応に努めているところです。さて、私は、令和４年２月定例会において、次期水道経営計画及び農業・農村振興計画関連の一般質問を行いましたので、説明責任の一環としてご報告させていただきます。

令和４年２月定例会

「いわき水みらいビジョン 2031」で取組む主要事業について

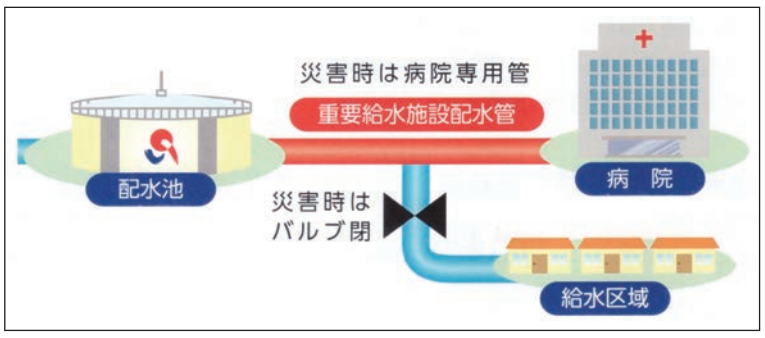
質問　「安全」、「強靭」、「持続」という３つの観点のもと、12の施策の柱を設定し、柱ごとに体系的な視点で様々な施策や事業を展開することや、目指すべき将来像の実現に向けて特に重要な事業として、水道施設総合整備計画に関連する９つの主要事業を設定しているとのことですが、重要給水施設配水管整備事業の現在の整備状況について伺います。

答弁　水道局では、地震災害対応マニュアルに基づき重要給水施設である救急医療機関と人工透析病院24施設、公共施設34施設、福祉避難所８施設の合計66施設を選定しております。現在、今年度末までに救急医療機関と人工透析病院６施設、公共施設６施設、福祉避難所２施設の14施設までの耐震管が整備完了する見込みです。

平第２配水池

質問　それでは、今後の整備予定施設などの考え方はどのようなものか伺います。

答弁　今後の整備予定施設については、令和４年度から令和８年度までの5年間において、いわき市医療センターなど救急医療機関と人工透析病院14施設、公共施設８施設、福祉避難所５施設の合計27施設までの耐震管を整備します。令和９年度以降においても、残る25施設までの耐震管について早期の完成を目指し計画的に整備します。



特に救急病院や人工透析病院については、人の命に直接関ってくるものなので、災害時にも確実に重要給水施設へ優先的な給水を確保するための管路の耐震化を計画的に推進されるよう要望します。

質問　９つの主要事業については、どの事業も必要不可欠な事業であり、今後、確実に推進していく必要があると思いますが、主要事業の進捗管理をどのように行っていくのか伺います。

答弁　主要事業の進捗管理につきましては、浄水場のバックアップ率など14の重要業務指標を設定し、事業の実効性を確保することとしています。事業の実施状況については、年度ごとの進捗管理と事業効果の点検や評価を行います。また、改善等の必要が生じたものは、翌年度以降の計画や予算に反映するものとし、ＰＤＣＡサイクルによる事業推進を図るものです。さらに、事業評価の結果は、水道事業経営審議会へ報告し、ご意見をいただきながら今後の事業運営に反映していくとともに、市のホームページなどで公表するものとしています。

主要事業の取組状況は、市民の皆さまが大変気にしていることと思いますので、基本理念にあるように、いわきの水道を未来に着実に引き継ぐために、強靭な水道施設の構築に着実に取組まれるとともに、市民の皆さまに主要事業などの事業の進捗がどのようになっているのか、分かりやすくお知らせすることについて強く要望いたします。

次期農業・農村振興基本計画の肝である「重点戦略の進め方について」

市議会では、演壇にアクリル板を設置し、新型コロナウイルス飛沫感染防止対策を実施しております。

質問 次期計画では、４つの重点戦略を掲げており、重点戦略の１つ目に「消費者の需要に即した生産振興と消費拡大の推進」を掲げております。消費者の需要に即した生産振興とはどのようなものか伺います。

答弁 生産者の所得向上を図るためには、消費者の需要に即した形で生産量を増加させることが重要になってきていることから、複雑化している流通の実態及び消費者の需要を把握し、高収益かつ特色ある農業を推進していくものです。このため、生産から消費までの本市における流通網の全体像を把握するための調査を行い、それらを踏まえ、農業者、関係機関・団体等と情報を共有し、農産物等の生産振興を図ってまいります。

質問 消費拡大のための施策をどのように展開していくのか伺います。

答弁 本市産農産物等の消費拡大につきましては、消費者に選ばれる生産を進めることが重要でありますことから、本市産農産物等のブランド化と販路拡大に取り組んでまいります。そのため、６次産業化へ向けた取組みの推進や農業生産工程管理（GAP）の普及啓発等による高品質・高付加価値化を進めるとともに、市内外に対し本市産農産物等の魅力を積極的に発信してまいります。

サプライチェーンの考え方に基づく流通網の実態把握など、これまで行政の関与の少なかった部分に切り込むことや消費者ニーズに合った農産物の供給に向けたデータの収集など、行政が担える部分をしっかりと示していくことは大変重要だと考えますので、積極的に進めていただきたいと思います。

質問 新たな可能性が拓く新時代の農業・農村の構築に向けた施策の展開とはどのようなものか伺います。

答弁 ４つ目の重点戦略である「新たな可能性が開く新時代の農業・農村の構築」は、その他の３つの重点戦略の各領域から、特に「新時代」の農業・農村に資する施策を抽出・再編するものです。スマート農業の推進をはじめ、農福連携の推進や福島大学食農学類との連携といった農業以外の分野との協力による地域共生社会の創出、農産物直売所の取組みや魅力発信による都市部の消費者と農村部の農業者のつながりの深化など、各種施策の相互作用を積み重ねていく中で、持続可能で魅力あふれる本市農業・農村の新しい形を模索してまいりたいと考えております。

新聞報道では、民間が進める農業支援サービスの多様化が進んでおり、ドローンによる散布代行やドローンをはじめとした各種農機のリース及び農機シェアリングサービスのほか、コロナ禍で技能実習生の受け入れが難しくなった農家に向けた代替人材の確保を支援する企業等も増えているとのことです。新たな可能性が増える取組みを進め、利用者が急伸している中、課題となるのが、このような動きについての認知度が低いことで、中山間や小規模農地などでは、このようなサービスが利用できないという誤解もあり、それを解くことだと書いています。

私は、このようなことをうまく軌道に載せていく役割を担うのが行政だと考えます。いち早く新たな可能性で農業意欲を高めるような情報を集め、農業で安定した生活が送れるように軌道に乗るまでしっかりと支える仕組みづくりについて、これまで以上にしっかりと伴走型で関わっていくことを強く要望いたします。

※写真はイメージです。

地域の高齢者や子供達が安全・安心に生活がおくれるように活動しています。

側溝新設工事

通学路カーブミラー交換

通学路脇側溝工事

道路脇雑木撤去作業

※活動実績の一部を抜粋しております。

西山かずみプロフィール　昭和34年9月13日（いわき市平生まれ）

経歴

- ■公益財団法人ときわ会 常磐病院 評議員
- ■学校法人志向学園 かなや幼稚園 理事
- ■いわきバレーボール協会 参与
- ■中神谷スポーツ少年団 顧問

国立福島高専機械工学科卒
アルプス電気(株)東京本社入社
「タウン情報いわき」の(株)アドプラン入社
ときわ会グループ(株)シグマ入社
総合広告代理店を起業

facebook
https://www.facebook.com/kaz2419

Hatena Blog
nishiyamakazumi.hatenablog.com/

【発行】西山一美後援会　〒970-8026　いわき市平字愛谷町３丁目８-1 TEL.0246-25-2141